様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：１２６１１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１３２８３

研究課題名（和文）西太平洋島嶼パラオの口頭伝承の採集・分析・アーカイブをめぐるオーラリティ研究

研究課題名（英文）Documentation and Digital Archiving of Oral Tradition in Palau, West Pacific Islands

研究代表者
紺屋　あかり（KONYA, Akari）

お茶の水女子大学・理学部・学部教育研究協力員

研究者番号：９０７５７５９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：代表者は、フィールドワークによって採集したパラオ口頭伝承の語りと図像をもとに、それらをデジタルアーカイブ映像として資料化した。既に完成している映像資料は、アイライ州の村落語りにパラオ語・英語で解説をつけたものである。そのほか、マルキョク州などで採集したデータについても同様の資料化作業を続けている。作成した映像資料は、パラオ国内の複数の機関（ベラウ国立博物館、アイライ州政府など）において、映像作品としての展示やコミュニティ教育、あるいは文化ツーリズムなどの場においての活用が予定されている。
また、上記の調査の過程で得た知見に基づいて執筆した論文（2019年『文化人類学研究』掲載）を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の成果は、固有言語の次世代継承ツールとして当該地域に還元されるものである。また、当該地域に限定されず、ひろくオセアニアの他地域においても同様にみられる現代的課題である、無形文化の保護という文脈において、具体的手法を示した点において、その社会的・学術的意義が見出される。

研究成果の概要（英文）：As a part of achievements of this research project, I published paper “Textualization of Palauan Oral Tradition: A process involved in the Materialization of Words”, Journal of Cultural Anthropology 20, 60-82 in 2019.
Besides, based on the data which I collected by fieldwork conducted since 2017-2019, I did work for filming and recording digital archive videos regards to Palauan oral traditions (village history). This is an explanation of nine types of village histories in Airai State (Babeldaob islands) both in Palauan and English.This digital archive videos will be used by several institutions in Palau (Belau National Museum, Airai State Office etc.) for various purposes such as Palauan language education, cultural tourism or museum exhibitions.

研究分野：オセアニア地域研究

キーワード：オーラリティ　ことば　口頭伝承　相互行為　無形文化　言語継承　デジタルアーカイブ　パラオ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は、固有言語の次世代継承が危惧されている西太平洋ミクロネシア・パラオ共和国を対象に、口頭伝承の採集・分析・アーカイブ化までを行う実践的研究である。本研究では口頭伝承の、①全州・島レベルでの採集・翻訳、②モーションキャプチャや Praat 音声解析などを用いた科学的分析及び定量化、③デジタルアーカイブ化の 3 点を中心課題とした。

【背景】母国語(パラオ語)離れによる無形文化の衰退状況
19 世紀以降の 4 カ国からの度重なる植民地経験、独立以降のグローバル化などを背景として、昨今パラオ語の次世代継承が危惧されはじめている。元来の無文字社会であるパラオでは口頭伝承を語り継ぐことで、生業知識、歴史、文化、政治などあらゆる知識を継承してきた。しかし、今日では若年層に見られる英語話者の増加を背景として、口頭伝承をめぐる次世代への継承が危ぶまれている。近年のグローバル化に伴う上記のような社会変化の状況を鑑みても、本研究が実施するパラオ口頭伝承の採集・分析・アーカイブ化は、緊急に取り組むべき重要課題である。

【課題】オーラリティ文化の地域固有性に関する理解の重要性
1) 「借用語」研究への偏り(言語人類学的課題)
植民地経験に伴い、パラオ語は一世紀のうちに 4 ヶ国語(スペイン・ドイツ・日本・英語) と接触してきた。上記の歴史的に特異な経緯を背景に、これまでのパラオ語を対象とする言語学研究では、借用語(特に日本語からの借用語)をテーマとする研究が多かった。パラオ語は、借用語使用に限らず、マラヨポリネシア語派の中でも極めて特異な言語的特徴を持つが、パラオ語の言語体系的理解は未だ薄く、植民地以前から使用されていた古典パラオ語(しばしば口頭伝承に含まれる)の研究成果も報告されていない。
2) エリート層の語りのみを保存、多声性の欠落(口頭伝承学的課題)
従来のパラオ口頭伝承研究は、口頭伝承の「語り」の部分が断片的に記録されているにすぎず、口頭伝承の一要素である身体技法(詠唱・踊り)や図像分析の視座を欠いている。そのため、一文化として口頭伝承を体系的に捉えるための説得性を持たない。これにより、口頭伝承論への理論的貢献度が低いだけでなく、一次資料としての価値をも薄めている。

２．研究の目的

本研究は、パラオ口頭伝承を対象に、オセアニアにおける無形文化の次世代継承という課題に対して、科学的手法を取り入れた具体的方法論の構築を目指すものである。本研究の過程においては、①歴史資料とフィールドデータとを往復しながら口頭伝承の変容過程を明らかにし、②ジェスチャー言語などの言語表象（身体知）をめぐる科学的分析を試みる。

３．研究の方法

本研究では、パラオ口頭伝承の中でも特にその次世代継承が危惧されている、村落歴史語りというジャンルに着目した。村落歴史語りとは、村落にまつわる神話、伝説、歴史的出来事などが含まれ、村落に帰属する知財として扱われるもので、記録・保存価値の高い知識である。この歴史語りを対象とした本研究の方法は、次のとおりである。

①村落歴史語りの採集及び地域間比較（バベルダオブ島アイライ州，マルキョク州）
②19 世紀の民族誌に記録された一部の歴史語りの資料とフィールドデータとの比較検討
③採集した村落語りの英語翻訳
④語りのデジタルアーカイブ化

４．研究成果

代表者は、フィールドワークによって採集したパラオ口頭伝承の語り、詠唱、踊り、図像をもとに、それらをデジタルアーカイブ映像として資料化した。既に完成している映像資料は、アイライ州の村落語りに、それぞれパラオ語・英語で解説をつけたものである。そのほか、マルキョク州などで採集したデータについても、同様の資料化作業を続けている。作成した映像資料は、パラオ国内の複数の機関（ベラウ国立博物館、アイライ州政府、パラオ教育省など）において、映像作品としての展示やコミュニティ教育、あるいは文化ツーリズムなどの場においての活用が予定されている。また、上記の調査の過程で得た知見に基づいて執筆した、論文「パラオ口頭伝承をめぐる人々の実践―ことばの物象化に着目して」『文化人類学研究』2019.12（単著/査読あり）を発表した。
2019 年 1 月 24 日、PVA（Palau Visitors Authority/パラオ観光局）はアイライ州と提携し、文化ツーリズム事業（アイライ州バイ（集会所）見学ツアー）を始動させた（2019 年 1 月 24 日発

行 Island Times, Tia Belau より)。本研究が対象とするアイライ州の村落語りの図像は、伝統的な集会所に描かれている。同州の集会所は、パラオに現存する唯一の歴史的建築手法によって建設されたものであり、180 年の歴史を持つ。これまでパラオの観光は、ダイビングなど海のアクティビティや、ペリリュー島などの戦跡ツアーなどに集中してきた。同文化ツーリズム事業は、パラオの固有文化である歴史的建造物並びに、村落の歴史語りを資源としてツーリズムに展開する、国内でもはじめての試みである。こうした流れに伴い、同州では、文化ツーリズムにおける本アーカイブ資料の運用が検討されている。観光という文脈における当該地域への知的還元については本研究計画当初は見込まれておらず、これは本研究成果にみる新たな展開である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 紺屋あかり	４．巻 63（12）
２．論文標題 パラオの伝統文化とシューカン	５．発行年 2018年
３．雑誌名 地理	６．最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 紺屋あかり	４．巻 20
２．論文標題 パラオ口頭伝承のテクスト化をめぐる人々の実践：ことばの物象化に着目して	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化人類学研究	６．最初と最後の頁 60-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　1件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 紺屋あかり
２．発表標題 パラオ村落語りのアーカイブ化：言語継承教育から文化ツーリズムでの活用
３．学会等名 平成30年度琉球大学島嶼地域科学研究所　個人型共同利用・公募型共同合同報告会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akari KONYA
２．発表標題 Documentation of Oral Tradition in Palau
３．学会等名 Pacific Preservation Summit 2018 (Guam)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Akari KONYA
２．発表標題 "Writing" Cultural Image: A Case Study of Palau, Micronesia in the West Pacific Islands
３．学会等名 ICAS10（The 10th International Conversation of Asia Scholars）,　(Chiang Mai, Thailand)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Akari KONYA
２．発表標題 Strategy or Appearance? Expanding the Local Gift System of "Siukang" in Contemporary Palau
３．学会等名 International Conference of East Asian Anthropological Association 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 紺屋あかり
２．発表標題 ジュゴンの伝説と保護活動ーミクロネシア ・パラオの事例から
３．学会等名 神戸大学学術Week「環境を守る物語の力ー地域の伝承と開発」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 紺屋あかり
２．発表標題 パラオ口頭伝承の継承と教育をめぐる実践的共同研究
３．学会等名 琉球大学国際沖縄研究所共同研究合同報告会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考